

令和2年度 学校経営計画・学校評価

□4月6日提出 □10月16日提出 ■3月29日提出

全日制

学校番号 8 高知県立山田高等学校 課程 全

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像 (1)生徒が誇りと自信を持って生き生きと学ぶ学校 (2)進路を確実に保障する学校 (3)地域に信頼される学校 生徒像 (1)自他に対して誠実で、誇りをもち、何事に対しても貫徹できる生徒 (2)知・徳・体の調和が取れており、地域社会に貢献できる生徒	目指すべき姿を実現するための取組等	(1)学力の定着・向上 (2)社会性の育成 (3)健全な心身の育成 (4)探究活動の推進 (5)国際交流活動の推進 (6)学校・家庭・地域の連携強化

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
基礎的・基本的な学力については、教科指導力の向上が認められ、基礎力診断テストの結果となって表れている。一方で、大学進学に対応できる学力や主体的に学ぶ態度の形成については依然として課題が残る。引き続き、課題・宿題の提出管理を徹底させ、一点突破全面展開を図っていただきたい。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
所謂「中だるみ」期とされる2年生を対象に自己評価を実施していることは評価できる。コミュニケーション能力やキャリアデザイン能力の向上については、地域課題探究学習プログラムが有効に作用したことによると考えられる。しかしながら、協働性を発揮する、および目標に向けてやり抜くという点では課題の残る生徒が一定認められる。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
生徒の成長を促したり学校の活性化に繋げたりするために、教育課程検討委員会をはじめ教科会、地域課題探究担当者会、生徒支援委員会等を開催し教職員がチームとして取り組み協働性が高まってきたように思われる。次年度に向けては、一層結果につながるよう効果のある取組を意識して展開してほしい。	

【重点項目：生徒に対する取組項目】

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	【現状】 ○3年4月時の基礎力診断テスト結果(3教科総合)D層51.1% ○国公立大学合格者14名(一般入試での合格者3名) 【目標】 ＜普通科・ビジネス探究科・商業科＞ 1 基礎学力の定着 3年4月及び2年次1月並びに1年次11月における基礎力診断テスト結果(3教科総合)におけるD層の割合を30%以下にする。 2 発展的学力の向上 ①国公立大学合格者を20名以上(内一般選抜での合格者を5名以上)にする。 ②模擬試験での3教科総合の平均点偏差値50以上を5名以上にする。 ＜グローバル探究科＞ 1月の総合学力テスト結果(3教科総合)における平均点偏差値を50以上にする。	《目標1について》 ○単元内容の7割定着を目指した授業構成 ○毎日の宿題、週末課題の提出と取組が不十分な生徒に対する指導の徹底 ○毎時間における小テストの実施 ○大学生を活用した学習指導 ○SNS利用の危険性についての啓発指導 《目標2について》 ○自主学習をせざるを得ない状況の構築 日々の宿題と週末課題 小テスト、単元確認テストの実施 ○調査における初見問題の実施 ○総合型選抜、学校推薦型選抜受験希望者に対する進捗管理の徹底 ○模擬試験に対応した進路補習の実施と出席管理の徹底 ○模試結果の情報共有と対策の検討	《目標1について》 3年4月基礎力診断テスト結果 A層2.0% B層16.3% C層34.7% D層46.9% ＜普通科＞ A層2.5% B層19.0% C層39.2% D層39.2% ＜商業科＞ A層0 B層5.3% C層15.8% D層78.9% 普通科は目標達成に向け、大きく進展している。一方、商業科の大半がD層となっており、教育課程の再考が必要である。 C 《目標2について》 ②模擬試験結果 3年6月進研共通テスト模試 1名(51.9) 7月進研記述模試 1名(53.3) 9月進研・駿台共通テスト模試 0 2年7月総合学力テスト 5名 国語4名、数学5名、英語4名 1年7月総合学力テスト 11名 国語12名、数学12名、英語6名 3教科総合平均点偏差値 普通科41.2、G探究科51.3	《目標1について》 基本的には、当初に設定した取組内容を継続して進める。また、商業科においては、系統的教科のカリキュラムマネジメントを適切に実施していく。授業外学習が不十分な生徒に対しては、面談指導を通して粘り強く指導する。そして、スマートフォン等の利用についても、その危険性に触れながら啓発指導を進める。 B 《目標2について》 当初に設定した取組内容のほか、授業外学習時間の不足を改善するために、以下の取組を行う。 ○ホームルーム担任・学年主任・進路指導主事による面接指導の徹底 ○自習室を利用して学習させる。	【目標1について】 2年1月基礎力診断テスト結果 A層4.0% B層15.0% C層29.0% D層52.0% 1年11月基礎力診断テスト結果 A層6.7% B層15.0% C層35.8% D層42.5% 【目標2について】 ①国公立大学合格者10名 ②模擬試験結果 3年10月ベネッセ駿台記述模試 0名 11月ベネッセ駿台共通テスト模試 1名 2年11月・1月総合学力テスト 1名・3名 国語9名・12名、数学2名・2名、英語7名・8名 3教科総合平均点偏差値 42.8・44.0 1年11月・1月総合学力テスト 5名・9名 国語6名・12名、数学9名・16名、英語4名・4名 3教科総合平均点偏差値 普通科39.6・41.6、G探究科47.7・51.6	○基礎学力の定着には、日々の学習活動が重要となる。したがって、あらゆる場面で学習の意義を説くとともに、宿題・課題の提出管理を徹底する。 ○国公立大学合格者数に対する経営上の危機感を共有する。合格者を増加させるために、II型及びG探究科の進捗管理を行うとともに、模試結果を全体共有する。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	【現状】 総合的な探究の時間における地域課題探究学習や地域でのボランティア活動等の成果として、学年を過ごすこと「かかわる力」は身に付いている。その一方で、例年2年次に出席不良の生徒が生じる傾向にあり、「やりぬく力」の形成が課題となっている。 【目標】 学期末の出席状況における皆勤者の割合を30%以上にする。〔2年生対象〕	○学年団・ホームルームにおける指導の充実 ○学年集会及びホームルームにおいて、貫徹精神を持つことの大切さを理解させる。 ○部活動をやり続けることの大切さをキャプテン会やクラブで指導する。	○1学期末の皆勤者の割合(2年生) 59.8%(61名) ○昨年度同時期の皆勤者の割合は45.2%であり、14名多くなっている。その一方で、10日以上欠席者が3名おり、学校への対応を図っていくことが課題となっている。 B 高知県オリジナルアンケート(6月実施)における「やりぬく力」(セルフマネジメント)は肯定回答が減少傾向にある。 (1年次4月75.7% 9月75.4% 12月73.9% 2年次6月67.5%)	○引き続き、学年団・ホームルームにおける指導を充実する。 ○部活動の意義や部活動を通して得られる価値や関係性について、全校集会等で伝えるようにする。	【2年生対象】 皆勤者の割合 1学期 2学期 学年末 45.6%(47名) 27.7%(28名) 17.8%(18名) 学習成績優良者 1学期 2学期 学年末 41.7%(43名) 33.7%(34名) 38.6%(39名)	次年度も、所謂「中だるみ」期とされる2年生を対象に進捗管理を図る。皆勤者及び学習成績優良者の割合を高められるよう、指導の充実を図る。

【チーム学校：教職員が取り組む項目】

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	・「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合を85%以上にする。	・教科会の充実 ・外部講師を招聘しての研究授業及び研究協議の実施 ・教員間の相互授業参観の充実	「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合 (H31年4月時) 1年生 77.4%(82.9%) 2年生 75.7%(60.7%) 3年生 72.5%(57.6%) 一学期末の成績不振者(欠点所有者、時数不足による欠点含) 1年生 9名(7.3%) 2年生 9名(8.8%) 3年生 1名(1.0%)	○教育課程検討委員会(学力向上検討委員会)を開催し、課題の共有を図る。 ○11月に授業参観週間を設定し、相互参観及び研究協議を行う。その際、授業評価アンケート結果も活用し、授業改善につなげる。	①授業に対する生徒の評価 「学校の授業は、よく理解できている」と回答した生徒の割合 1年生 77.4%(4月時) 71.6%(11月時) 2年生 75.7%(4月時) 69.3%(11月時) 3年生 72.5%(4月時) 80.0%(11月時) ②成績不振者(欠点所有者、時数不足による欠点含) 二学期末 学年末 1年生 15名(12.3%) 4名(3.3%) 2年生 13名(12.9%) 0 3年生 2名(2.0%) 0	引き続き、教科会で、授業の構成や中心発問、授業方法等について、議論できる環境を整備する。
生徒理解生徒支援	○生徒に寄り添い、一人一人の状況や特性、気持ちを捉えるとともに、生徒の実態や内面を共感的に理解する。 ○生徒への目標設定を下げず、決められたことを守らせ、やり抜かせる。	・皆勤者を30%以上にする。 ・出席不良者(30日以上欠席/年)を2%以下にする。	・学年会の実施(毎週) ・特別支援教育校内委員会の実施(毎月) ・地域課題解決学習担当者会の実施(毎週) ・ホーム面談の充実	一学期皆勤者の割合 65.6% 1年生 94名(75.8%) 2年生 61名(59.8%) 3年生 59名(59.0%) 出席不良者(10日以上欠席) 2.5% 1年生 3名(2.4%) 2年生 3名(2.9%) 3年生 0名 皆勤者及び出席不良者ともに昨年度に比して良好である。	不登校傾向にある出席不良者については、SCやSSW、市の社会福祉協議会と連携を取りながら対応していく。	皆勤者の割合 二学期末 学年末 1年生 48.4% 33.6% 2年生 27.7% 17.8% 3年生 26.0% 21.0% 出席不良者の割合(30日以上欠席) 二学期末 学年末 1年生 3.3% 1.6% 2年生 2.0% 2.9% 3年生 0 0	不登校傾向にある生徒の増加が予測されるが、コーディネーターを中心に校内外の機関及び関係者との連携を一層進める。
学校の振興	○地域の中学校から信頼される学校づくりを行う。また、学校の特色として「探究する学校」を打ち出す。	・A日程入試における地域の中学校からの出願率を40%以上にする。(R元年度入試結果30.5%) ・グローバル探究科への出願数が定員に迫るようになる。	・県教委、地教委、中学校と連携を取りながら、中学生や保護者、地域住民に普通科をはじめグローバル探究科及びビジネス探究科の特色を周知し、出願につながるよう説明会や模擬授業、中学校訪問等の広報活動を行う。	中学生一日体験入学参加者232名(令和元年度201名) 中学校訪問による中学生への説明 16校374名 中学校訪問による3年担任への説明及び私塾への訪問・説明の実施を策定している。	○体験入学における全体説明を一新する。具体的には、3学科の生徒による中学生目録に立ったプレゼンテーションを行う。 ○引き続き、県下の中学校・塾を訪問し、探究科を中心とした説明会を実施する。	A日程入試出願者数(出願倍率) 普通科 58名(0.73倍) グローバル探究科 16名(0.20倍) ビジネス探究科 32名(0.80倍) *香美市内中学校からの出願率29.4%	○地元中学校をはじめ、県下の中学校・塾に訪問し、特色等についての説明会を実施する。 ○メディアと連携しながら広報活動を進める。
働き方改革	○教育に対する情熱を持ちながら、合理的かつ協働的に業務に取り組む職場環境を整備する。	・時間外労働時間の総平均を月45時間以内にする。	・原則19時前の退勤に努める。 ・毎週水曜日を部活動休業日とし、できる限り早い時間での退勤に努める。 ・週休日の部活動は顧問間で交代しながら指導する。 ・衛生委員会を開催し、職員の健康管理を行う。(毎月)	45時間を超える時間外労働従事者数 4月1名 5月3名 6月8名 7月2名 8月0名 9月7名	声掛けを行い、19時までの退勤に努める。	45時間を超える時間外労働従事者数 10月3名 11月5名 12月0名 1月0名 2月0名 3月0名	長時間勤務からの脱却が認められつつある。意識の浸透が行動化につながることで、次年度以降も積極的な声掛けと組織風土の構築に努める。